

団長の独り言 第三十四回公演「夢めぐり」

「夢めぐりと私」(小山恵子)

「団長の独り言」をご愛読のみなさま、こんにちは。

久しぶりの登場の小山恵子です。おかげさまで第三十四回公演「夢めぐり」は、劇団ふあんハウス創立二十周年記念公演に相応しい舞台となり、大成功を収めることができました。

「夢めぐり」は十年前、劇団ふあんハウス創立十周年記念公演で上演した作品でした。

当時、メンバーになって間もないのに十周年の記念公演に出演できるなんて、ラッキーなんて思っていました。が、まさか十年後の二十周年記念公演にまで自分が出演するなんて思ってもいませんでした。

随分長くふあんハウスでお世話になってるのですね！自分でもビックリしています(笑)。

十年前の「夢めぐり」でいただいた役は、末吉家長男の嫁・多恵さん。今いるメンバーからは、「ええー、想像つかないー」なんて言われてしまいます。

初演「夢めぐり」では、末吉家の家事をはじめ末吉家の全てを任

されているのは多恵さんだったので、台本を読んでいると、物語の中心である末吉家の中で居なくてはならない人物だと感じ、セリフを話さない時の芝居、さりげなく自然に動いて、普段の生活をその空間で表現する難しさはありました。が、自分にとって非常に勉強になった役でした。

内面はもちろんのこと、末吉家のセットの空間や小道具も含め、普通に生活している感を出すことを意識していたのを思い出しました。

そのせいか末吉家のセットや小道具に愛着を感じ、舞台「夢めぐり」自体が私にとって、田舎のなげない生活がそこにあつて落ち着けて癒される作品でした。

そんな夢めぐりが、二十周年記念で上演することが決定！多恵さんとも再び出会い、十年後の私がどう演じるか色々と考えていたら、なんと！多恵さんの義理のお姉さん正子さん役をいただきました。

予想外なことでしたので、同じ「夢めぐり」でも初めての感覚があつて、読み合わせの時は、かなり緊張していました。

でもとても新鮮な気持ちで作品と向き合えて、なによりも再び「夢めぐり」の舞台に立てることは、心から嬉しいことでした。

十年後の三十周年記念ではまた「夢めぐり」！！と思うと楽しみですが、自分の年齢のことを考えると・・・元気で舞台に立てることができれば幸せです。

公演への稽古が始まると舞台の幕が開くまで、考えもしなかった出来事が次から次へと起きます。それはドラマよりもドラマチックだったりもします。

現実起こっていることを信じたくなかつたり、突然のヘビーな出来事に頭や気持ちがついて行けなくなりそうになります。

それでも「楽しみにしてください」を向いているお客様のために前を向いていて突き進んでいると、不思議な縁や出会いがあつて、乗り越えることが今回もできました。

どんな事があつても、ぶれることなく信念を強く持つて常に向き合つていければ、自然と道は開けるのかもしれない。

何かをずっと続けていくうえで、最も大切なことだと今回つくづく感じました。

今回の公演では、終演後もしばらくの間、舞台や稽古の夢ばかり見続けていました。

舞台を観に来てくれた友人と会って、直接良かったという感想を何度か聞いて、やっと安心したのか夢も見なくなりました。

精神的な疲れもやっとならされて、次回公演へ向けて準備できるようになりました。

言葉は言葉というだけあつて、ありがたい言葉をいただくと、心の陽のエネルギーをもたらししてくれます。

創立二十周年を迎えた劇団ふあんハウス。

続けることの大変さを十分に味わつたうえで、さらに次へのステップへ向かい走り続けます。

今回は、新年早々の「月曜日(土)、板橋区立文化会館にて「夢めぐり」板橋」です。

たくさんのお客様の笑顔にめぐり会えるよう、前回公演の反省を踏まえ、しっかりと真剣に稽古に臨んで、新たな「夢めぐり」をおみせします。

今後とも劇団ふあんハウスをよろしく願います。